

## 特集：卒業

## 生物学類学位記授与式 卒業生謝辞

山田 宗樹（筑波大学 生物学類 4年）

春が訪れ、先日卒業式を共に終えた同級生たちもそれぞれの道を歩み始めたことと思います。先日行われた生物学類の学位授与式にて生物学類学生表彰をいただきましたこと、改めまして感謝申し上げます。自分自身は、特に研究その他でめざましい業績をあげたわけではありません。しかし授業や研究生活からサークル活動、はては日常生活にいたるまで、4年間の経験を通じて沢山のものを得ることができました。学位授与式にて卒業生総代として読ませていただいた謝辞に、この4年間で得たものを3つの「学び」としてまとめましたので、紹介させていただきたいと思っています。

## 生物学類 学位記授与式 卒業生謝辞

本日はお忙しい中、私たちのためにこのような式を開いていただき、感謝申し上げます。四年前の春、新調したばかりのスーツに袖を通して、緊張した面持ちで入学式に出席したことも今では懐かしく感じられます。あれから四年が経ち、再び門出を迎えるにあたり、この四年間で私たちが一体何を学んできたのかを改めて考えてみました。

入学して最初の年は、「仲間の大切さ」を知った一年だったように思います。高校までの授業とは大きく異なる大学の講義や家族から離れての一人暮らし、サークル活動に大学の行事など、「初めての経験」が一気に押し寄せてきました。やどかり祭での御輿作りなどの行事では、皆で協力して一つのものを上げる喜びが感じられました。時に困難にぶつかることもありましたが、そんな時はいつも周りにいる仲間と助け合うことで、乗り越えることができました。

二・三年生の期間では、生物学類ならではの実験や実習を通して「生物との向き合い方」を学びました。実験はうまく行かないこともあり、時間を延長して作業を続けることもしばしばでした。そんな時でも、先生方やTAの先輩方が丁寧に最後まで指導して下さったことをよく覚えております。また元々フィールドで生物を見るのが好きだった私にとって、下田や菅平等で行われた実習の数々はとても魅力的なものでした。普段何も知らないと見過ごしてしまうような生物たちに目を向け、丁寧に観察することはとても楽しくもあり、材料を丁寧に見る目を養い、また生物の多様さに気づくきっかけにもなったと感じています。

卒業研究が始まった四年生では、各々の研究テーマを通じて「困難に向き合う姿勢」を学びました。実験を進める過程では、欲しいデータが得られなかったり、予想と食い違う結果に悩まされることも多々ありました。しかし一見失敗に思えるこうした結果と向き合っただけで、次のステップへの糸口が見えてくるという

事を学びました。各々がこうしてつかみ取った成果を、卒研発表という形でご報告できたことは、私たち一人一人にとって大きな自信となりました。

この先それぞれが進む道は違いますが、道の途中で壁にぶつかった時に、この四年間で学んだことが生きてくると思います。「仲間と支え合いながら」「困難に正面から向き合う」ことで、一歩ずつ前に進んでゆけると信じています。

また、生物学と関わり続ける人もそうでない人もいますが、生物学を通じて学んだ情報を客観的に判断する姿勢や、豊かになった世界観を大切にしたいと思っています。

最後になりましたが、この四年間は先生方や事務の皆様、先輩方や友人、それに家族の支えがあったからこそ、ここまでやってこられたのだと感じます。これらの方々に改めて心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。



Communicated by Takeo Hama, Received April 16, 2014.